

## マッピングを利用した古文理解について

国語 国語総合 総合グリーン科学科・第1学年  
石川県立翠星高等学校・教諭

### 1 事例の概要

本校では、朝読書や比較的易しい内容のコラムなどを読ませることで活字に慣れさせる取組を行っている。そのため、教科書の文章も滑らかに音読できるようになってきた。しかし、文と文の関係をとらえたり、文章の中で作者の言いたいことを理解したりするレベルまでには到達できていない生徒が見受けられる。

文章の内容を理解するためには、長期的には何度も繰り返して読んで慣れること、短期的には文と文の関係や文章の構造をつかむことが重要である。この二つの相互作用で、読解力が高まると考える。国語科授業の中で、文章を読解するためには、特に後者について意識しながら読むことが大切だと考えた。

具体的には、マッピングの手法を用いて図示化し、1枚の紙に要点を整理させ、全体像を把握する力を養っていく。

上記の活動を通して、文と文の関係や文章構造をつかむ力がつければ、読解力の育成はもとより、文章表現の力をも高めることが可能となる。

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ・ 5W1Hや具体と抽象の表現などの関係に着目し、文章の表現効果や作者の表現意図を読み取ることができる。
- ・ 図示化の方法を知り、作品の全体像やあらすじを把握することができる。

#### (2) 指導上の工夫点

##### ① 図の作り方（マッピングの説明）

簡単な例題を用いて、図の作り方を理解させる。

※マッピング・・・地図状の図をつくる作業。ここでは、思考を広げたり、構成を考えたりする学習活動として用いている。イメージマップ法、マインドマップとも。

##### ② 5W1Hの観点での分類

物語の筋を押さえるためには、5W1H（誰が・いつ・どこで・なぜ・何を・どうした）を考えながら読むことが大切である点を認識させる。

##### ③ 表現と表現の関係（具体と抽象、説明とまとめ等）での分類

表現上の特徴的な箇所を指摘し、文章構造や表現効果を考えさせる。

### 3 指導の実際

教科書 高等学校 標準古典 物語1 『竹取物語』 (出版社 第一学習社)

資料等 ワークシート

学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準
ガイダンス	・演習シートで、マッピングの行い方を学ぶ。	・下記の2点を指導する。 (1) 5W1Hで項目設定 (2) ブランチの書き加え	・マッピングの行い方を理解している。
作品の概要把握① (5W1H)	・ワークシートに従って、5W1Hの観点から作品状況を図示化する。	・特に「誰がどうした」という主語述語の関係を中心に項目を整理させる。	・簡潔に、かつ的確に図示できる。
作品の概要把握② (構造理解)	・ワークシート上の項目の関係を分類する。	・なぜこのような分類にしたのか(分類の理由)を質問しながら、作品構造全体を概観させる。	・分類した理由を明確に言うことができる。
まとめ	・各項目の内容を1枚の紙に整理して記入する。	・他の項目についても、図示化させる。	・意欲的に、図示化に取り組んでいる。

C-1 指導案

C-2 ワークシート

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

- ① 文章中の5W1Hを意識して読むことができる生徒が増えた。
- ② 抽象的表現と具体的表現の組み合わせにより、文章が構成されている場合が多いことを理解する生徒が増えた。
- ③ 異常な状況や予想外の状況が出てきた場合は、「普通なら」「予想通りなら」どうなるかを考えるようになった。

#### (2) 課題

- ① 古典の場合、現代語訳をどのように提示するか(マッピング活動の前か、途中か、後か)、一層の考察を重ねたい。
- ② マッピングに熱中するあまり、複雑な図示となった場合がある。シンプルな図示化をしないと、かえってわかりづらくなることを理解させる必要がある。
- ③ 図示化のためのガイダンスの出来不出来が、後の学習活動に大きく影響する。図示化を理解させるためのガイダンスの工夫と徹底を図る必要がある。
- ④ マッピングの学習で学んだ「5W1H」や「具体と抽象の関係」への意識を、古典や現代文に関わりなく次の学習に生かせるように、今後の学習活動を工夫していきたい。

D-1 生徒の作品

D-2 かぐや姫の昇天マップ(指導者向け参考資料)